

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 23 日現在

機関番号：33921

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2013

課題番号：22520377

研究課題名(和文) モンゴル伝承文化における馬の隠喩の解明 遊牧文化における馬の隠喩研究

研究課題名(英文) Metaphor of the Horse in Mongolian Folklore

研究代表者

藤井 麻湖(藤井真湖)(FUJII, Mako)

愛知淑徳大学・交流文化学部・教授

研究者番号：90410828

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円、(間接経費) 630,000円

研究成果の概要(和文)：本研究はモンゴル・フォークロアにおける馬の隠喩を『チンギス・ハーンの二頭の駿馬』をもとに考察したものである。チンギス・ハーンと密接な関係にあるため、モンゴルの古典『元朝秘史』研究と連動していることが本研究の特徴である。黄河湾曲部のオルドス地域は当該伝承の中心の地であるが、『元朝秘史』によればこの地を賜ったのはタタル部のイエスイ妃である。馬が女性、とくに非正妻を意味するという観点から二頭の馬をみると、チンギス・ハーンの前正妻であるタタル部出身のイエスイ妃とイエスゲン妃の二人の姉妹がモデルとして浮上してくる。

研究成果の概要(英文)：This study elucidates the metaphor of the horse in Mongolian folklore based on a series of texts called "Genghis Khan's Two Horses". As evident from the title, the story is closely related to Genghis Khan. Therefore, the subject is closely connected to the "Secret History of the Mongols", the most popular classic among the Mongolians. This story has been passed down through generations among the Mongolians living outside, but the Ordus region, located at the bend of the Yellow River, is the centre of the tradition. According to the "Secret History of the Mongols", Yesui Khatan, a consort of Genghis Khan, was granted the Ordus region in Genghis Khan's will. If the horses in "Genghis Khan's Two Horses" are viewed as two illegitimate wives (my hypothesis regarding the metaphor of the horse), then, Yesui and Yesungen are two sisters, who are Tatars (an ethnic group overthrown by Genghis Khan), are the models for the horses.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・各国文学・文学論

キーワード：馬 隠喩 モンゴル 元朝秘史 チンギス・ハーン

### 1. 研究開始当初の背景

本研究は、モンゴル・フォークロアにおける馬の隠喩研究であるが、2. 研究の目的で記した仮説は世界で初めて提起したものでありオリジナリティを充分にもつものであったといえる。とくに、研究申請者が研究開始当初において関連論文をいくつか執筆済みであったことが背景にある。

### 2. 研究の目的

モンゴル伝承文化における馬は、起源としては、女性の、特に正妻ではない女性の隠喩として構想されたのではないか。本研究は当該仮説を証明する決定打となるべき研究を『チンギス・ハーンのと頭の駿馬』および『黒馬』という2種の物語研究を土台に提出することを目的とする。後者は民話の国際分類でよく用いられるアールネ・トンプソンの分類法で AT301 (シンデレラに次ぐ話数を誇ると言われる) に分類されているモンゴル系の少数民族の物語である。

### 3. 研究の方法

前者の『チンギス・ハーンのと頭の駿馬』の場合、従来、当該物語を分析する研究者は刊行されたテキストに頼ることが多かったといえる。しかし、従来刊行されてきたテキストは楊海英氏のテキスト以外すべて幾つかの写本を底本に校勘した混合テキストになっている。それゆえ、本研究の土台はあくまでも純粋な写本を底本にするべきと考える。現在、本研究に要する写本は、モンゴル、中国、ロシアに保管されているので、これらを調査する。後者については青海省土族のテキストの封数のヴァリエーションをもとに考察する。

### 4. 研究成果

初年次(2010)には、『チンギス・ハーンのと頭の駿馬』の写本研究として、内蒙古及びモンゴル国(ウランバートル市)及び中国内蒙古自治区(呼和浩特市)で当該伝承の諸写本を見ることができた。前者は2011年8月14日~24日、後者は2011年9月4日~18日におこなった。前者の文献調査では、モンゴル国の鉛版による『チンギス・ハーンのと頭の駿馬』の諸版を見ることができた。モンゴル国の文献調査はダムディンスレンの「ハルハ系統」の写本である。後者の文献調査においては、モンゴル国よりも比較的良好な環境で写本を見ることができたので、2011年秋に国際シンポジウム「オイラド・モンゴル研究の新展開」でそのアウトラインを学会発表することができた(現在、再投稿論文を執筆中)。

2年次においては、本研究の契機となったモンゴルの馬頭琴伝説についての考察をドイツで行われた国際シンポジウムにおいて発表し、西欧における研究者へ発信したことである(本シンポジウムの論集は出版される

ことになっておりすでに論文を提出しているが未刊である)。馬を非正妻の隠喩とする本論文の構造分析そのものについては特に異論は出なかったものの、馬の隠喩を「非正妻」に限定する考え方については懐疑的であったといえる。これについて言えば、研究代表者の仕事は傍証的考察を積み重ねることにより強度を増す仮説である。それゆえ、研究代表者の関連論文を今後英語による発表により広く知られるように工夫する必要があることが実感された。とはいえ、馬の隠喩は多くのモンゴル伝承の中で確実に衰退あるいは消失していることが観察されるので、動態性を性格とする伝承をもとに馬の隠喩の考察を展開し続けることには自ずと限界があることも認識せざるを得ない。一方で、『チンギス・ハーンのと頭の駿馬』はチンギス・ハーンを主人公としている点に着目すると、別の視界が拓けてくる。チンギス・ハーンという観点からみると、当該伝承は『元朝秘史』と密接に関わっており、本文の内容の静態性は、動態性を性格とする上記の伝承よりも馬の隠喩研究に着実に貢献することが見込まれる。とくに、平成18年-21年度に取得していた基盤研究(C)「『元朝秘史』研究における文学研究の構築—モンゴル英雄叙事詩研究を土台として—」(課題番号:08520279)で執筆していた論文「『元朝秘史』第268節におけるイエスイ妃に関する叙述—グルベルジン・ゴア妃の伝説からみた解釈—」(『愛知淑徳大学現代社会研究科研究報告』第5号2010年)は、当該伝承研究に密接に関連するものである。当該論文においては、作者あるいは「語り手」の、チンギス・ハーンの前妻であるイエスイ妃に対する共感が非明示的に叙述されていることを指摘していた。非明示的に示される、作者の前妻を肯定する態度は、本研究課題と通底するものである。それゆえ2年次においては『元朝秘史』の「語り手」がチンギス・ハーンの前妻のみならず、各集団や個人にどのようなスタンスでいたのかという付随的考察をモンゴル国や日本の学会で発表し、論文を執筆した。

3年次(2012)においては、2年次における『元朝秘史』研究が契機となり、7月23日~26日におこなわれた第5回ウランバートル日モ国際シンポジウムに誘われ、秘史における「語り手」候補者を具体的に考察する発表をおこない、論文は日本語・モンゴル語の両言語で出版された。一見すると、当該発表は本研究とは無関係だが、実は本研究と密接に関わっている。チンギス・ハーンには正妻ボルテ夫人以外に、3人の前妻がいたことが秘史に記述されている。その3人のうち2人は前述したイエスイ妃とイエスゲン妃姉妹で、残る一人はクラン妃である。そして、このクラン妃が「語り手」候補者の考察の中で立ち現われてきたのである。当該考察をとおして、クラン妃に対しても「語り手」は肯

定的であったことが判明した。馬 = 非正妻という隠喩が成立するためには、いかなる人物の非正妻であれ、作者あるいは「語り手」が非明示的に指示しようとするその非正妻に肯定的であることが必要である。したがって、2年次と3年次に行った秘史研究は、チンギス・ハーンの非正妻を取り扱う作業であったといえる（直接的な論点とはしてはなかったが）。馬が非正妻の隠喩ではないかという本研究の仮説の論証を進めるうえで、エスニシティという観点でモンゴル民族を表象するチンギス・ハーンという人物の非正妻を取り扱うことは重要な意味を持つ。この場合、単なる非正妻を取り扱う以上に、この非正妻に対して伝承作者が肯定的であったことをテキスト分析によって確認することが必須である。むしろ、伝承作者のチンギス・ハーンの非正妻たちへの肯定感が仮に確認されたとしても、チンギス・ハーンの正妻ボルテ夫人に対する態度も対比しなければ、この肯定感についての確認作業はそれほど意味あるものにはならない。この確認作業は最終年度に残されることになったといえる。2年次と3年次の成果は、本研究課題である『チンギス・ハーンの二頭の駿馬』研究と『元朝秘史』との連動的な視野が欠かせないことを示したものであるといえる。

その他、馬の隠喩研究の嚆矢ともなった研究代表者の研究を名古屋大学において「モンゴルの馬 馬頭琴伝説からみた馬の隠喩」というタイトルで発表できたことは社会還元としての意義がある。

4年次の最終年次（2013）においては、2年次および3年次における『元朝秘史』研究との関連で、アジア民族学会春季大会で『チンギス・ハーンの二頭の駿馬』の二頭の駿馬のモデルとしてイエスイ妃とイエスゲン妃である可能性を提起した。本発表により、ようやく本研究の少なくとも一つの伝承については歴史的な実在モデルを提示することができたといえる。この論は、二頭の駿馬をこれまで兄弟と素朴に捉えてきた理解を根底から覆すものである。秘史によれば、チンギス亡き後に、イエスイ妃が黄河湾曲部のオルドス地域を相続したのであるが、このオルドス地域はまさに『チンギス・ハーンの二頭の駿馬』の一大流伝地であり、ここで提起した仮説は伝承地域とも一致することになる（現在、論文を執筆中）。

前述の3年次の成果として述べたように、チンギス・ハーンの非正妻の問題は正妻ボルテ夫人との対比という視点が欠かせない。この点、チンギス・ハーンの正妻ボルテ夫人については、2014年に公刊された『元朝秘史』におけるボルテ夫人事件 繰り返し現れる“略奪”と“奪還”の諸事件のクライマックスとして「」で、本論の考察とは別の論点からではあるが、秘史の「作者」がボルテ夫人に対しては他のチンギス・ハーンの3人の非正妻たちに比べると肯定的ではない叙述構

造になっていることが確認される。それゆえ、ボルテ夫人論文も、二頭のモデルがイエスイ妃とイエスゲン妃であることを間接的に支持する内容となっている。

以上により、チンギス・ハーンの非正妻3人のうち、『チンギス・ハーンの二頭の駿馬』における二頭の駿馬のモデルが姉妹のイエスイ妃とイエスゲン妃ではないかという結論は妥当なものだといえよう。

最終年度には上記以外に中国社会科学民族文学研究所主催で『ゲセル』（三大モンゴル英雄叙事詩のひとつと言われている）の国際シンポジウムが中国内モンゴル自治区でおこなわれ（8月12～13日）、そこで馬の隠喩が後退している伝承『ゲセル』においても馬の隠喩の痕跡が認められるという分析を発表した（現在、論文を執筆中）。

その他、日本国内においては、馬頭琴伝説の絵本出版に関わった日本モンゴル協会や岐阜モンゴル協会における講演会において、また中国の北京の中央民族大学における2回の授業や通遼市の内蒙古民族大学における講演において、本研究の土台となった馬頭琴伝説における馬の隠喩についての分析を紹介したことは社会的還元としての意味を充分にもつものと考えられる。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計6件）

藤井真湖：『元朝秘史』におけるボルテ夫人事件 繰り返し現れる“略奪”と“奪還”の諸事件のクライマックスとして「」グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科 第6号、2014、39-54頁、査読無

藤井真湖：『元朝秘史』における anda 概念 王罕・ジャムカ・チンギスの非明示的な関係を基に「」愛知淑徳大学現代社会研究科 研究報告第10号、2014、47-71頁、査読無

藤井真湖：『元朝秘史』の“モンゴル英雄叙事詩”的研究 現代に残る伝説から『元朝秘史』の物語分析へ「」千葉大学 ユーラシア言語文化論集第15号、2013、43-70頁、査読無

藤井真湖：『元朝秘史』におけるソルカン・シラとジェベ gelbüre ko'ün=「語り手」の仮説をもとに「」愛知淑徳大学現代社会研究科 研究報告 第9号、2013、17-34頁、査読無

藤井真湖：「モンゴル国立図書館蔵の共載十二年刊行の鉛版本『チンギス・ハーンの二頭の駿馬』について-2つのタイプの伝承の『共通部分』における差異の明確化に向けて-」愛知淑徳大学論集 交流文化学部 第2号、2012、11-31頁、査読無

藤井真湖：『元朝秘史』の地の文における“我々”表現に隠された意図-巻3第110～巻11第263節における一人称複数形についての

考察-」愛知淑徳大学現代社会研究科研究報告 第7号, 2011, 45-66 頁, 査読無

〔学会発表〕(計9件)

藤井真湖:「言論の“不”自由と文学の可能性 モンゴル英雄叙事詩研究の視座から」日本モンゴル文学会秋季研究発表会, 2013年11月30日, 吹田市勤労者会館第1研修室(大阪府)

Mako FUJII: “The Horse Metaphor in the Epic Geser, International Conference “Epic Geser/Gesar and Beyond”, 2013年8月13日(中国・内蒙古自治区巴林右旗)

藤井真湖:「チンギス・ハーンの二頭の駿馬 内容紹介と研究概況」アジア民族文化学会春季大会第25回大会, 2013年5月11日, 共立女子大学本館1010教室(東京都)

藤井真湖:「『元朝秘史』の“モンゴル英雄叙事詩”的研究」(モンゴル語および日本語で発表), 第3回東方ユーラシア・ノマッド文化研究国際シンポジウム, 2013年3月20日, 千葉大学文学部棟1階102講義室(千葉県)

藤井真湖: “Identifying the Narrator in the Secret History of the Mongols: An Investigation of the Profile in Connection with the ‘Sa’ari ke’er’ (Sa’ari Steppe)” - (モンゴル語の通訳付きで日本語で発表), 第5回ウランバートル日モ国際シンポジウム チンギス・ハーンとモンゴル帝国 歴史・文化・遺産, 2012年7月25日, モンゴル・日本人材開発センター多目的室セミナー室(Mongolia, Ulaanbaatar)

藤井真湖: 「『元朝秘史』の地の文における“我々”表現に隠された意図-巻3第110~巻11第263節における一人称複数形についての考察-」日本モンゴル学会秋季大会, 2011年11月19日, 大阪大学箕面キャンパス(大阪府)

藤井真湖: 「内蒙古社会科学院所蔵の手写本『チンギス・ハーン』の二頭の駿馬』の紹介-「オイラトと関連している」後半物語のついた手写本を中心に-」国際シンポジウム「オイラド・モンゴル研究の新展開」(日本語での発表), 2011年11月7日, 国立民族学博物館(大阪府)

Mako FUJII: “Metaphor of the ‘horse’ (mori): A structural analysis of legends about the Mongolian horse fiddle”, International Symposium “The Hero and the Bard-Continuity and Transformation in the Oral Literature of the Mongols and their Neighbours-” 2011年10月28日, Nordrhein-Westfälische Akademie der Wissenschaften und der Kunst (Germany, Dusseldorf)

Mako FUJII: “On the pronoun first-person plural in the non-conversational part of the SHM-Study on the ‘writer(s)’ of the SHM through scrutinizing ‘we’ forms from §110 to §263”, The 10<sup>th</sup> International Congress of

Mongolists, 2011年8月10日, Mongolian National University(Mongolia, Ulaanbaatar)

〔図書〕(計1件)

藤井真湖:「『元朝秘史』における「語り手」「サアリ草原」という地名との関連で」

Гү : үү , , θ (

2012.07.24-26.

), Редактор: Д.Шүрхүү, Б.Хүсэл, Иманиши Жүнко, Б.Сэржав, Орчуулгын

: . . . . . , 2013, pp.112 - 140. [日本語論文とそのモンゴル語翻訳]

〔その他〕

ホームページ等なし

学会発表ではないが、社会的還元として意味あるものとする発表を記載すると以下のようなになる。

藤井真湖:「モンゴルの馬 - 馬頭琴伝説からみた馬の隠喩」モンゴル展の付属講演会(招待講演), 2012年7月28日, 名古屋大学博物館講義室(愛知県)

藤井真湖:「モンゴルの馬 馬頭琴伝説からみた馬の隠喩 -」岐阜モンゴル協会における講演会, 2013年11月9日, 長良川スポーツプラザ2階研修室(岐阜県)

藤井真湖「書承されてきたモンゴルの英雄叙事詩~チンギス・ハーンに魅せられて~」, 2014年2月8日, 守山生涯学習センター(愛知県)

藤井真湖: “An examination of the Mongol heroic epic poetry ‘Enkh Bolot-Khaan’”, 中央民族大学蒙古语言文学系の院生に対する授業(パワーポイントを英語でモンゴル語で授業), 2014年3月10日, 中央民族大学文化楼802号室(中国・北京市)

藤井真湖: “Metaphor of the “horse” (mori): A structural analysis of legends about the Mongolian horse fiddle”, 中央民族大学蒙古语言文学系の学部生に対する授業(同上), 2014年3月13日, 中央民族大学文化楼805号室(中国・北京市)

藤井真湖: 中央民族大学での研究会での英雄叙事詩の隠喩についての発表, 2014年3月20日, 中央民族大学文化楼805号室(中国・北京市)

藤井真湖: 通遼市の内蒙古民族大学蒙古学学院での講演会: 中央民族大学での大学院生に対する授業と同内容, 2014年3月26日(中国 通遼市)

その他、本研究との密接な関連で執筆した『元朝秘史』関連の論文を前回の科研で執筆したものを合わせた計7本の論文を基盤研究(C)平成18-21年度科学研究費補助金研究実績報告書「『元朝秘史』研究における文学

研究の構築 モンゴル英雄叙事詩研究を土台として」(課題番号：08520279)として印刷し関連領域の研究者に配布した(ただしこれはあくまでも『元朝秘史』の成果としたものであるため、本研究課題の馬の隠喩関係の論文を収録していないことを断っておく)。

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

藤井 麻湖(真湖)(FUJII Mako)  
愛知淑徳大学 交流文化学部 教授  
研究者番号：90410828